

口永良部島

1 火山活動度レベル

火山活動度レベルは 2 (やや活発な火山活動) でした。

2 概況

22 日 14 時 15 分頃、振幅のやや大きい火山性微動が発生しました。火山性地震はやや多い状態が続いており、火山活動はやや活発です。

3 噴煙活動の状況

監視カメラによる観測では新岳・古岳からの噴煙は観測されませんでした。

4 地震・微動活動の状況(図 2、図 3)

- ・ 22 日 14 時 15 分頃、振幅のやや大きい火山性微動が発生しました。振幅のやや大きな火山性微動の発生は平成 15 年 8 月 11 日以来です。上屋久町役場口永良部島出張所によると、火山の状況に特段の変化は見られませんでした。なお、火山性微動の月回数は 7 回(2 月：2 回)と発生回数に大きな変化はありませんでした。
- ・ 火山性地震の月回数は 292 回(2 月：160 回)とやや多い状態が続いています。
- ・ 中旬に新岳の北西約 4 km の深さ約 4 km を震源とする地震が 4 個求まりました。マグニチュードの最大は 1.7(暫定値)でした。

5 赤外熱映像観測結果(図 4)

- ・ 4 日に上空からの赤外熱映像観測 を実施しました。
- ・ 新岳火口では火口縁周辺に温度の高い領域が現れていました。
- ・ 古岳火口では火口形状に沿って輪状に温度の高い領域が現れていました。

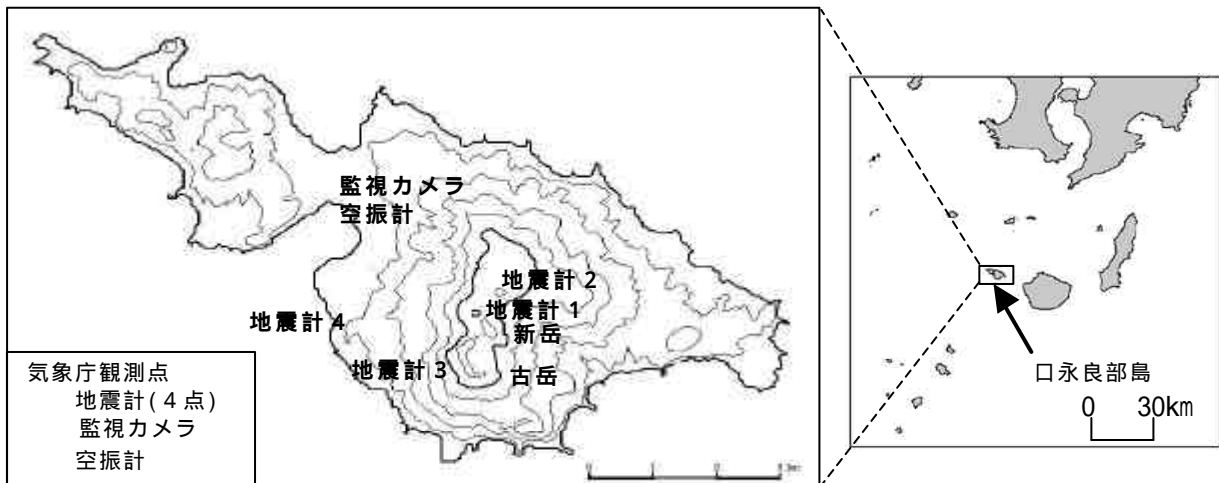
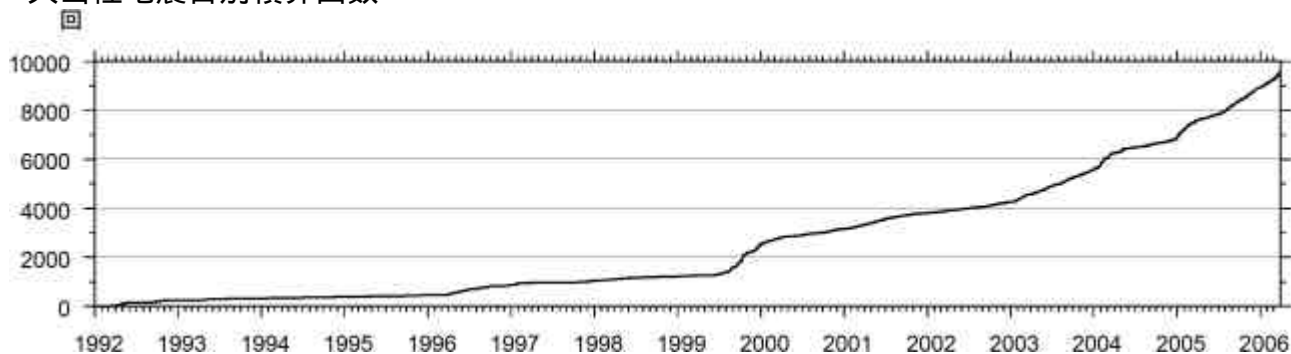


図 1 観測点位置図

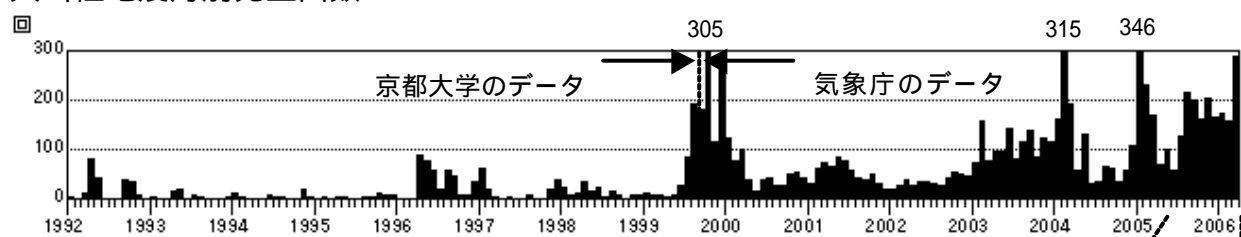
資料作成に当たっては、気象庁のデータの他、京都大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを使用しています。また、地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号：平 17 総使、第 503 号)。

口永良部島

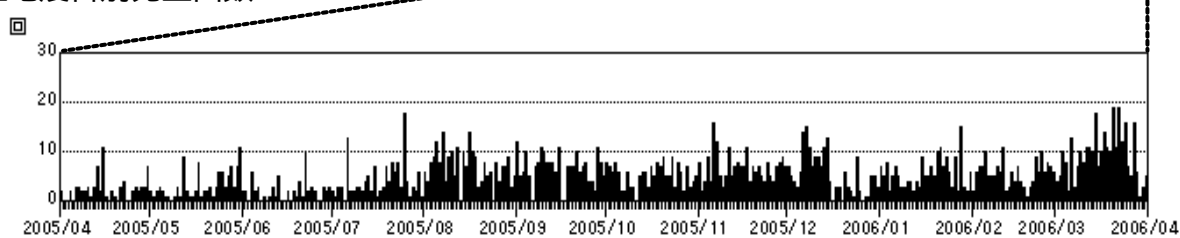
火山性地震日別積算回数



火山性地震月別発生回数



火山性地震日別発生回数



火山性微動日別発生回数

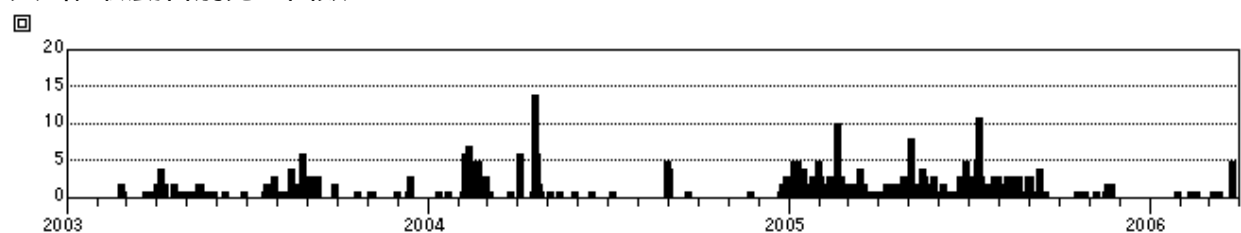


図2 火山活動経過図(1992年1月1日～2006年3月31日)

火山性地震は2005年7月以降やや多い状態で経過しています。

火山性微動は2004年12月以降やや多い状態で経過していましたが2005年9月からは減少しました。

- 1992年1月1日～1999年9月12日、2005年12月15～28日は京都大学が口永良部島に設置した観測点で計数したデータを使用しています。

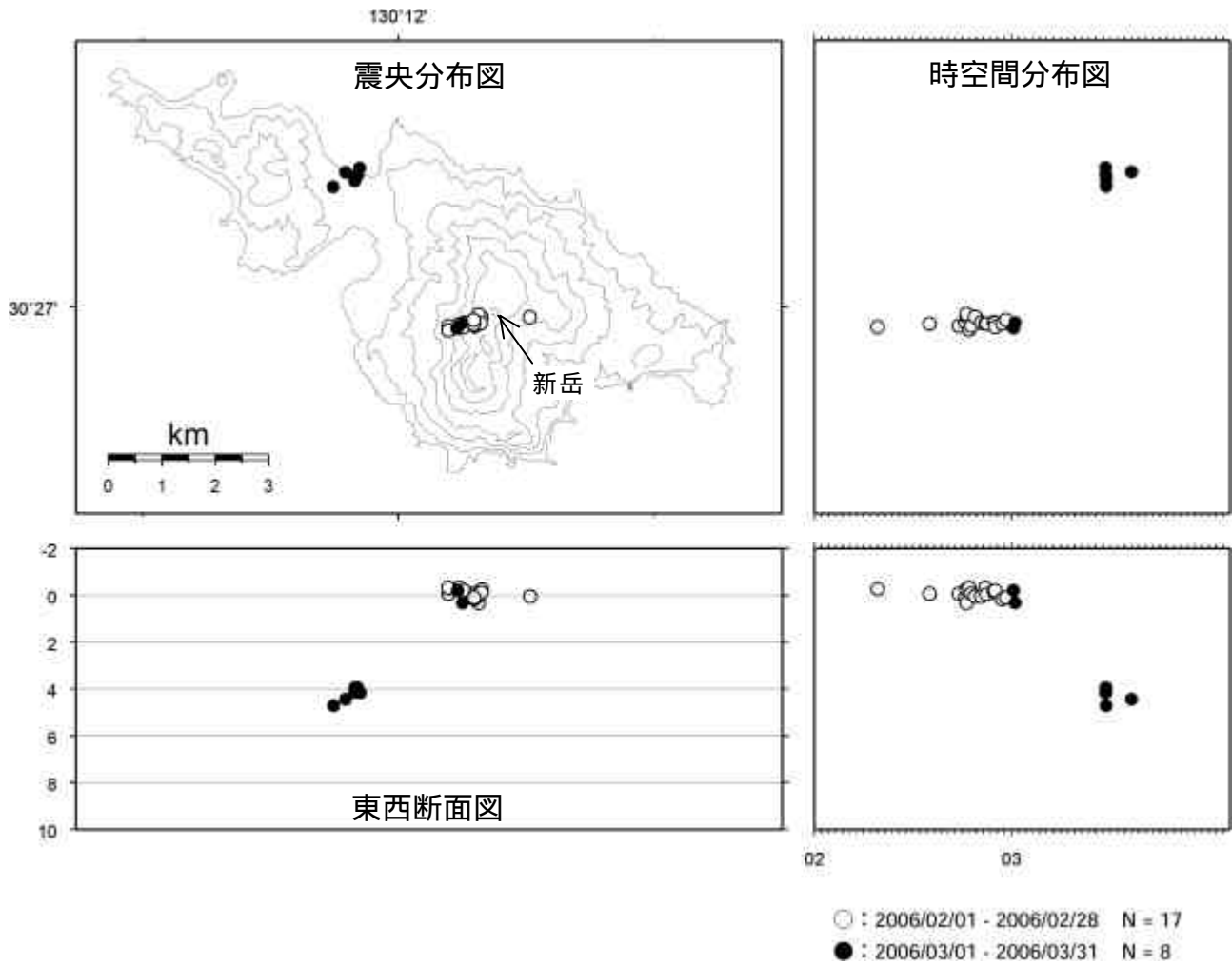


図3 火山性地震の震源分布(2006年2月1日～3月31日)

中旬に新岳の北西約4kmの深さ約4kmを震源とする地震活動がありました。マグニチュードの最大は1.7(暫定値)でした。

赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で、実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

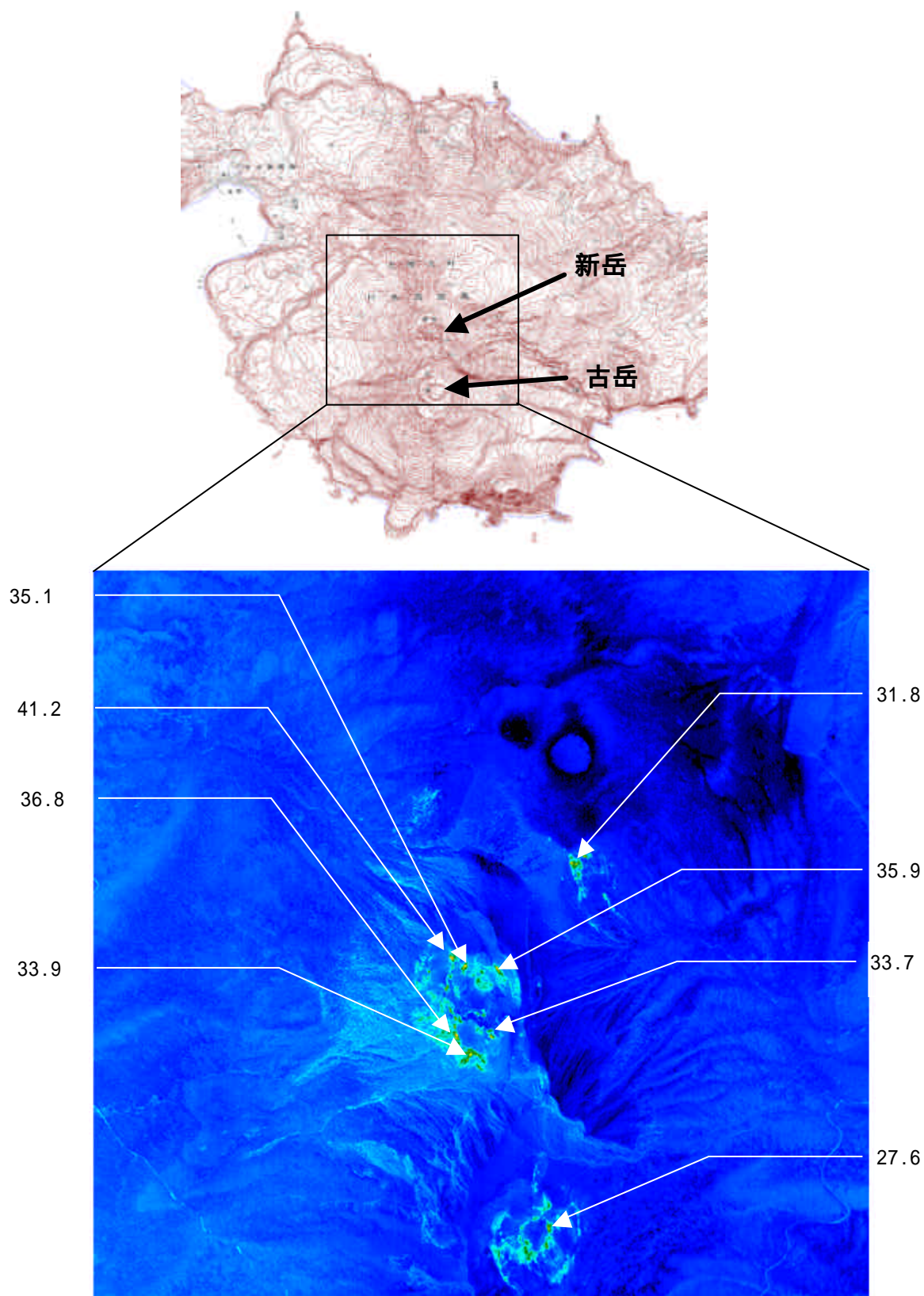


図4 赤外熱映像観測結果(2006年3月4日実施)

新岳火口では火口外壁あたりに温度の高い部分が現れており最高温度は41.2 でした。

古岳火口では火口形状に沿って輪状に温度の高い部分が現れており最高温度は27.6 でした。